えんちょう通信

No.８９
令和　５年　１月２０日
福島市立清水幼稚園
発行者　佐藤　一男

「でも　からっぽに　してしまっては　あとの　ひとに　おきのどく。」

今年は「うさぎ年」、３学期の始業式で『どうぞのいす』(作／香山美子　絵／柿本幸造　ひさかたチャイルド　1981 年)という絵本について話をしました。

ある日、うさぎが木の椅子を作り、立て札に「どうぞのいす」と書いて、野原の木の下に置きました。通りかかったロバはドングリのかごを椅子に置いて、木陰でついお昼寝。そこへクマがやって来て、ドングリをいただきます。「でも　からっぽに　してしまっては　あとのひとに　おきのどく。」と、かわりに蜂蜜を置いていきます。次にキツネがパンを置いていき、その次にはリスがやってきて同じように栗を置いていきます。ロバが目を覚ますとドングリが栗になっていて、驚くというお話です。

あとの人のことを思って、みんなが何かを残しておいてあげる。最初に椅子を置いたのがうさぎだとは誰も知らない。でもうさぎの優しさが次々につながっていき、みんなが幸せになっていきます。

幼稚園では今、来年度の教育課程を先生方みんなでつくっています。『どうぞのいす』のように、自分以外のひとや自然に対する思いやりを大事にしたいと考え、「持続可能な社会の創り手を育てる」(文部科学省『幼稚園教育要領』前文より)ということを意識して教育の計画を作ることにしました。

今、目の前にいる子どもたちは２０年後３０年後の未来に生き、そこで立派な大人になり社会を支えていきます。世界中の考え方も違う様々な人たちとかかわりながら、地球温暖化のような困難な課題を解決していかなければなりません。そのときに大切なのは「よく見聞きし　わかり　そしてきちんと話す」こと、そして他者を理解し、共感していくことだと考えます。その子どもたちのため、今どんな教育をしてやらなければならないのか一生懸命考え、教育の計画をつくりたいと思っています。

【令和５年度の清水幼稚園の教育の重点】

《教育の方向性》「持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培う」

◎　子ども一人一人が進んで『よい生活習慣・よい学びの習慣』を身につけるようにする

○　遊びや生活の中で、よい生活習慣　・よい学びの習慣を進んで身につけるよう丁寧に指導・援助する。

・『あいさつ　へんじ　応答』の習慣　・手伝う習慣　・おいしく食べる習慣「小学校で給食を食べよう」

・話をきちんと聞く習慣　・絵本や図鑑などを見たり読んだりする習慣

◎　多様な『人・もの・こと』とかかわり、『他者理解』と『共感』する力を育む

○　『いい電』に乗って、世界を広げる。(例)「県立美術館・図書館に行こう」

○　地域の自然や文化に触れる。　(例)「阿部農園でりんご狩りをしよう」「茅葺屋根の佐藤家へ散歩に行こう」

○　地域の様々な人とかかわる。　(例)「福島消防署清水分署で消防車を見よう」

○　外国の言葉や文化に触れる。　(例)「ALTと遊ぼう」

○　小学校との日常的なかかわりを深める。　(例)「小学校探検に行こう」

○　体験したことを表現したり、言葉にしたりして、理解する。

よく見聞きし　わかり　そしてきちんと話す　(体験を経験に！)

◎『地域に開かれた幼稚園』づくりを進め、『保育の質の向上』を図る

○　保育を振り返り、保育の改善を進める。(リフレクション)

・保育改善の視点　『子どもの可能性を信じるあたたかな眼差しと丁寧な応答』

○　保護者や地域の方々のボランティアを積極的に活用する。

○　「清水こぐまの会(子育てサークル)」の活動を支援し、充実する。

○　小学校へのスムーズな接続を図るための保育の改善と充実を進める。

・言語環境、言語活動の充実　・小学校の授業参観研修

○　保護者の活動を支援し、充実する。　・教養講座の充実　・様々な保育参観形態の工夫